

1 学校教育目標

2 目指す姿（学校像・幼児児童生徒像・教師像）

かしこく 素直に 元気よく伸びる子どもの育成

- 主体的に学ぼうとする子ども ○ 思いやりの心のある子ども
- 自分の体を大切にする子ども ○ 子どもに寄り添い、確かな指導を行う教職員
- 保護者、地域に信頼される学校

3 現状と課題

過去3年間で、全国学力テスト、基礎基本定着状況調査において、通過率は急激に伸びている。したがって、基礎学力（漢字、計算等）は確実に定着してきている。しかし、知識を活用し問題を解決する力は依然として弱い。また、昨年度、問題解決能力の育成のための手段として「コミュニケーションの向上」（小集団の活用）に取り組んだが、手段が目的となり、話し合い活動が問題解決力の向上につながっていない。

4 目標

[中期経営重点目標] 安心感のもてるクラスづくりを基盤に、自分自身の考えを明確に持ち、相手の考えを受け入れ、自分の考えを論理的に発表することができる児童の割合を全クラスで70%以上にする。

[評価指標] 自分の考えを論理的に発表することができる児童の割合。(振り返りカードやノート)

短期経営重点目標（1年目）	評価指標	主な具体的方策
算数科で、自分の考えを持ち、それを発表し、友達の考えを理解することで問題解決ができる児童の割合を70%以上にする。	自分の考えを持ち、発表し、友達の考えを理解した児童の割合。(該当単元の問題解決型の課題正答率)	ノート等に自分の考えを表し、小グループの中で、自分の考えを発表し、友達の考えを聞いて理解する場面を週1回以上設定する。 ----- 考えるきっかけとなる学習課題を工夫した授業を年3回以上行う。
このクラスになってよかったと思う児童の割合を現在の80%以上から90%以上にする。	このクラスになってよかったと思う児童の割合(振り返り調査)	帰りの会において、みんなの頑張ったこと及びみんなのために頑張った人を発表し、その頑張りをみんなで認めたたえる。(信用貯金の活用) ----- 月1回、学級裁量の時間を利用して、コミュニケーション力を高める活動を行う。(体ほぐし、アサーショントレーニング等) ----- 週1回以上、日記指導(必ずコメントを返す)により児童の心の状態等を把握すると共に、児童とのつながりを深める。
気持ちのいいあいさつができる児童の割合を現在の70%以上から80%以上にする。	気持ちのいいあいさつができる児童の割合(振り返りカード)	登校して教室に入る時、教室に人を迎える時、下校時に教室を出る時は、元気よくあいさつする。 ----- 登下校時に、見守り活動をしている人、知り合いの人、先生、友達に会ったら、元気なあいさつをする。 ----- 校内で、学校外から来られた人に、元気よくあいさつをする。 (以上3項目の評価を週1回、振り返りカードを活用し、自己評価させる)